

北シリア概説

2018年5月17日～6月14日

項	目次
1	略語集
2	戦闘と治安状況
4	Syriaにおけるその他の活動
5	2018年シリア人道支援レスポンスプラン(HRP) 基金概観(2018年6月13日時点)

略語集

AOG	反体制派
FSA	自由シリア軍
GoT	トルコ政府
GoS	シリア政府
GoR	ロシア政府
INGO	国際非営利組織
IS	イスラム国
IED	即席爆発装置
IRC	国際救援委員会
KSA	クルド自治区
PYD	クルド民主統一党(YPGの政治団体でHasakaの「自己統治」政治団体を主導)
YPG	クルド人民防衛隊
SDF	シリア民主軍(その殆どがクルド人民防隊(YPG)により構成かつ主導され、凡そ10%がアラブ族出身)
SDC	シリア民主評議会(SDFの政治団体)
SLF	シリア解放戦線(アラビア語 - Jabhat Tahrir Suriya, 「穏健派」反体制派(AOGs)同盟。特にAhrar Al-Sham及びNourredine Al-Zinkiで構成される)
HTS	「ハヤト・タハリール・シャム」Hay'at Tahrir al Sham(「過激派」反体制派同盟。特にabhat al-Nusraを指す)

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

本レポートの情報源として、以下の団体が提供するものを参照しています：

Mercy Corp Humanitarian Access Team (MC HAT), INSO, 及び以下のウェブサイトを含む：

Institute for the Study of War, Chatham House, Human Rights Watch, Al Jazeera, SouthFront, Rudaw, and Al-Monitor (お断り:情報源の団体名は原文ママ)

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

免責事項: この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

1. 戦闘と治安状況 (Map source <http://syriancivilwarmap.com>)

MANBIJ 撤兵

2018年6月4日、米国の国務長官とトルコ政府は会談し、Manbij の治安の安定に向けた共同管理を合意した。後日、クルド系YPGは、Manbijから軍事顧問を撤兵させることを発表した。また、トルコ政府はManbijの撤兵と、非軍事化の6ヶ月プランを発表した。しかしながら、SDFの非クルド人武装グループであるManbij軍事評議会は、街にトルコ軍を駐留する事について受け入れることはできないと発表した。コメント:米国とトルコManbij合意の詳細について明らかになっていないものの、トルコ政府にテロリスト認定されているクルド系YPG勢力の自主的な撤退については含まれていないようだ。だが、SDFの非クルド系勢力、特にManbij軍事評議会の継続した駐留と、米国とトルコ政府が共同で町の治安と安定を確保する事は、米国がトルコ政府と同等の役割を待ち、かつトルコ政府は全てをコントロール下に置かないことを示唆している。SDFにとって、彼らの軍隊をEuphrates東岸へ撤兵させることに戦略的意味を持つ。トルコ軍とのフロントラインを整備し、河が自然の防壁となるという事である。

アンチクルド抵抗勢力の動き:

2018年6月初旬に、「ザ・ポピュラー・トリバル・レジスタンス」の組織が発表された。発表は、シリア政府の諜報機関の長官と北部と東部アラブからの部族指導者とのミーティングの直後に行われた。新しく組織されたグループは、シリア政府の許可なく駐留している海外軍隊に対する反対勢力だ。海外軍力とは、主に米国、フランス、そしてトルコの軍隊を指している。コメント:シリア政府の諜報機関との結びつきからして明らかに、「ザ・ポピュラー・トリバル・レジスタンス」はシリア政府の支配下にある武装勢力で、Afrinと北Aleppoに駐留しているトルコ軍とクルド自治地区を弱体化させる役割を与えられているようだ。このアラブ系のグループを通じて、シリア政府は、クルド自治の支配下にある地域のアラブ人口に対する高まる不満を利用しようと試みている。アラブ人達は、統治機構の中で取り上げられることが少なく、社会的に無視されている。加えて、SDFの徴兵制は非常に不人気で、アラブ人有権者が偏って弾圧の対象にされ、そして、教育問題の様な、様々な政治的問題が議論になっている。他の反対勢力は現在、自治軍に対して攻撃を指揮している。具体的にはライオンズ・オブ・ポピュラーレジスタンス、東シリアポピュラーレジスタンスとAr-Raqqaポピュラーレジスタンスだ。全てのグループがおそらくシリア政府から支援を受けている。



クルド自治区とシリア政府間での更なる交渉:

2018年6月上旬に、SDFの政党派であるシリア民主評議会(SDC)は、シリア政府との無条件の和平協定に対する準備ができていると発表した。コメント:PYDが主導するクルド自治区の中で、SDCがどの程度影響力と力を持っているかは明らかではなく、かつ、自治政府を代表した発言であるかどうかも確認がとれていない。しかしながら、自治政府はおそらく、シリア政府と自身の将来のあり方について交渉するであろう。Assadシリア政府大統領は、様々な場面で、自治政府は交渉をする、さもなければ、軍事攻撃を受けるだろうと述べている。現在、攻撃が行われる可能性は低いが、シリア政府は Idlib行政区域とDara付近の南西中央地区のどちらかへの攻撃に備えている。クルド自治区は交渉に向けて、いくつかのイベントが彼ら自身にプレッシャーが加わると感じている。具体的には、

- ・SDF軍は、彼らにとって、管理し守るためには大きすぎるエリアへと広がりがつつある。
- ・SDF警備担当者に対する暗殺とIED攻撃が増加している。同アラブ系のレジスタンスグループも同様で、上記のテキストボックスを参照のこと。
- ・トランプ米国大統領は、数ヶ月以内に、同地域からアメリカ軍を撤退させると表明している。
- ・Afrin における SDF への軍事作戦が成功したトルコは、自治政府が支配している大きなエリアに対する脅威となっている。

- Syrian Government (Syrian Arab Army and allies)
- Islamic State
- Armed Opposition Groups (Ahrar al-Sham and other AOG)
- Armed Opposition Group Hayat Tahrir al-Sham
- SDF/YPG
- Turkish Army and AOGs
- Israel occupied Golan Heights
- Syrian Democratic Forces and Russia

IDLIBの空爆:

2018年6月8日から11日の間、シリア政府と、おそらくロシア政府の軍事航空機が、Idlib市の北東に位置する、AOGが持ついくつかの村落へ向けて空爆を指揮した。報道によれば、この空爆で16名が死亡、2回目の空爆で18名が負傷、3回目で60名が負傷したと伝えられている。この空爆は2018年に実施されたものの中で最大規模だ。攻撃された村落は、10,000人ものシーア系ムスリム教徒が故郷とする、包囲されたシリア政府が持つFouaとKefrayaの近くであった。HTSは空爆の反撃として、6月10日に、FouaとKefrayaにてわずかな地上攻撃を実施した。

シリア、IDLIBにおけるトルコ政府の軍事行動について:

2018年5月中、トルコ政府のシリア北東に位置する、Idlib行政区域の全て、Aleppo西部地方、そしてHama 北部の反対勢力居留地に対する介入がさらに大きくなり、複雑になりつつある。

- ・トルコ軍はAleppoの西部地方部と、Idlib行政地区の東境界線にいくつかの観測所を設置した。トルコ政府は現在12の観測所を保有しており、それらはロシアとイランと合意された緊張緩和エリアに集中的に設置されてある。
- ・北西シリアにて、「民族解放戦線」と呼ばれる10の武装したAOGの新たな連盟が組織され、解放戦線は凡そ50,000名の戦士で構成される。この同盟組織はトルコ政府より直接資金援助を受けると報じられている。
- ・トルコ政府は、この先2ヶ月の間で、HTSの解散を要求していると報じられている。
- ・報道によると、トルコとロシア、イラン間で合意された緊張緩和プロセスの一環として、シリア政府は北部Hamaと東部Idlib行政区域近くに配置しているフロントラインの軍隊を撤退させ、同場所はロシア警察が代替し配備される。同様に、シリア政府は、他のエリアをトルコ政府がサポートする武装グループへ引き渡すだろうと言われており、おそらく、新しく組織された民族解放戦線に引き渡される。その見返りとして、トルコ政府は、HTSのような、北部HamaとIdlibに存在する急進派AOGを解体させることを約束する。

コメント: 5月14日と15日にはトルコ、ロシア、イランの9回目のアスタナ会談が行われた。報道されていたよりも多くの時間を使って議論をしていた様子。またこの会談で、トルコ政府の、北西に存在する反対勢力に対する介入のプランが最終化されたと思われる。このプランはトルコにとってリスクの高い戦略だが、特にHTSやその他アルカイダと同盟関係にある、急進派と言われるAOGの解体ができるかにかかっている。全ての組織が自主的に解体するとは思えず、トルコ政府が支援するAOGと急進派AOGの間で衝突が発生する可能性が高い。

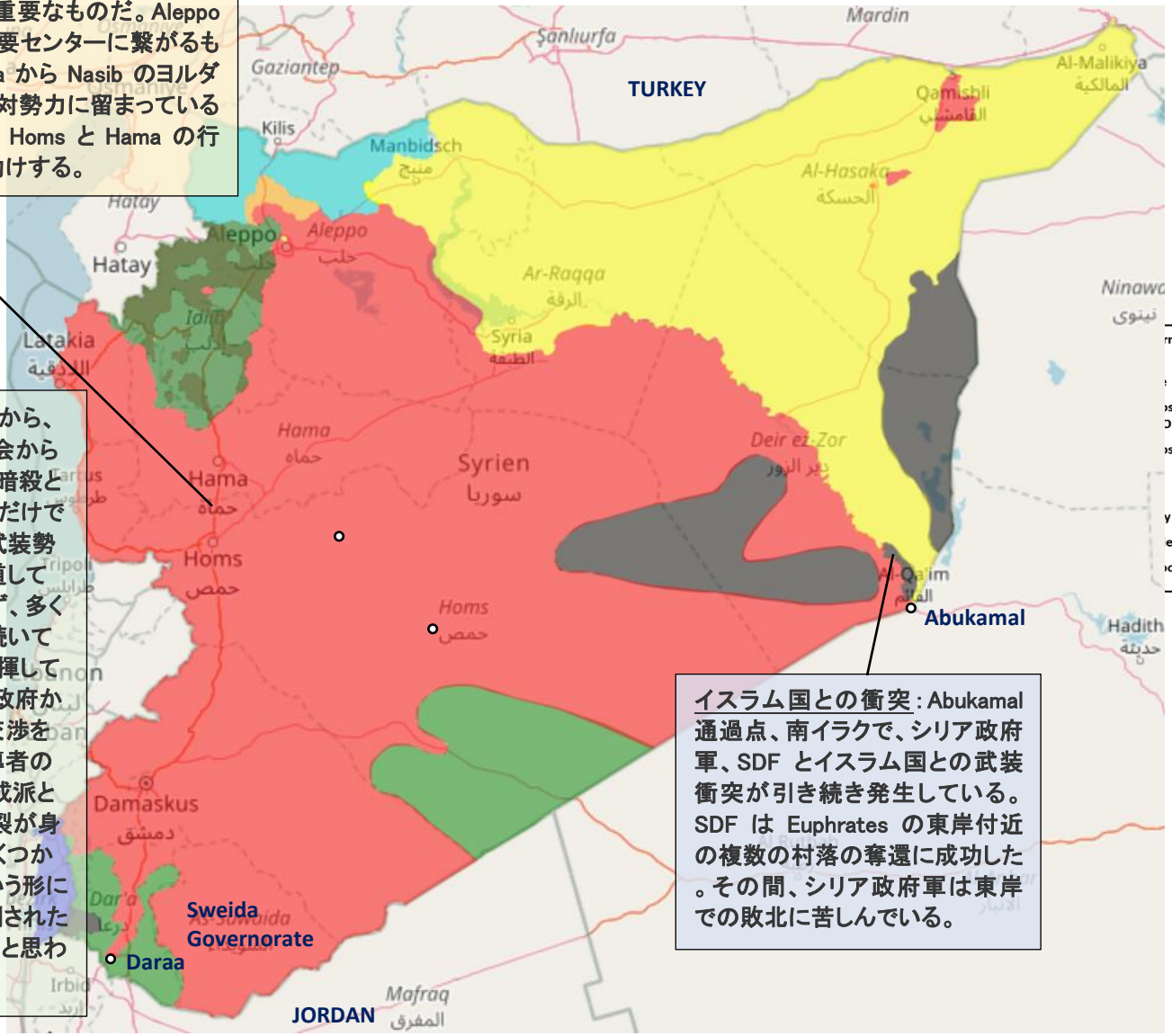
シリア政府軍は北部HamaとIdlibに対して攻撃を仕掛けるとは考えにくい、トルコ政府軍と同盟関係のAOGが間もなく居留地の境界線のほとんどを支配するようだ。ここにトルコのIdlibに対する介入の本当の動機があると考えられる。トルコはすでに250万人のシリア難民を受け入れている。Idlibには推定230万人ほどおり、その半分は国内避難民だ。反対勢力が持つ居留地へシリアの攻撃があれば、多くの人々がトルコへ避難し、選挙前のトルコ政府とトルコの経済にとって大きな負担となる。北西居留地の管理支配は、トルコがシリア難民をトルコ国外へ移動させることを可能にさせる。

2. シリアにおけるその他の活動 (Map source <http://syriancivilwarmap.com>)

M5 高速道路 2018年6月6日、シリア政府は、先月の北部 Homs の地方部にいる AOG との誓書合意の末、Hama-Homs M5 高速をオープンさせた。コメント:この高速道路のオープンは経済、軍事、そして象徴的な物としても非常に重要なものだ。Aleppo のヨルダン国境から多くの人口を抱える主要センターに繋がるもの道路だ。Idlib 行政区域と南部の街 Dar' a から Nasib のヨルダンとの国境を超える小さなエリアに通じ、反対勢力に留まっているわずかなエリアでもある。オープニングでは Homs と Hama の行政区域にあるロシアの観測所の設立を手助けする。

拘束監禁と暗殺運動:2018年5月中旬から、Dar' a と Sweida 行政区域の様々な委員会から来ている調停委員会メンバーに対して、暗殺と身柄拘束運動が発生している。6月10日だけで、メディア筋は、名前が知られていない武装勢力が少なくとも11名を殺害したことを報道している。このような脅迫があるにも関わらず、多くのコミュニティでそれでもなお交渉は続いている。コメント:どのAOGがこの運動を指揮しているのかは明らかになっていない。シリア政府からの攻撃を避けるために、地元の誓書交渉を進めたいという複数のコミュニティ指導者の願いは、南シリアのリーダーを、誓書賛成派と反対派へと分裂させてしまった。この分裂が身柄高速という形で現れ、そしてその内いくつかは調停委員会のメンバーを殺害するという形に発展してしまった。これに関わらず、予測された攻撃の前、また最中でも誓書交渉は続くと思われる。

イスラム国との衝突:Abukamal 通過点、南イラクで、シリア政府軍、SDF とイスラム国との武装衝突が引き続き発生している。SDF は Euphrates の東岸付近の複数の村落の奪還に成功した。その間、シリア政府軍は東岸での敗北に苦しんでいる。

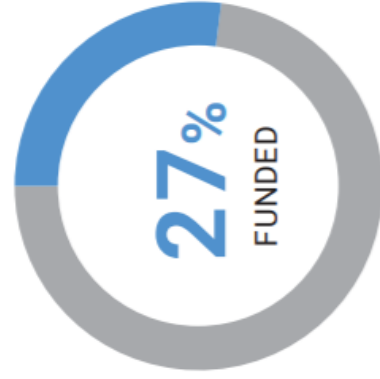


ment (Syrian Arab Army and
 sition Groups (Ahrar al-Sham
 JG)
 sition Group Hayat Tahrir al-
 y and AOGs
 ed Golan Heights
 cratic Forces and Russia

2018 Syria Humanitarian Response Plan (HRP) FUNDING OVERVIEW

AS OF 13 JUNE 2018

Source: Financial Tracking Service (FTS)



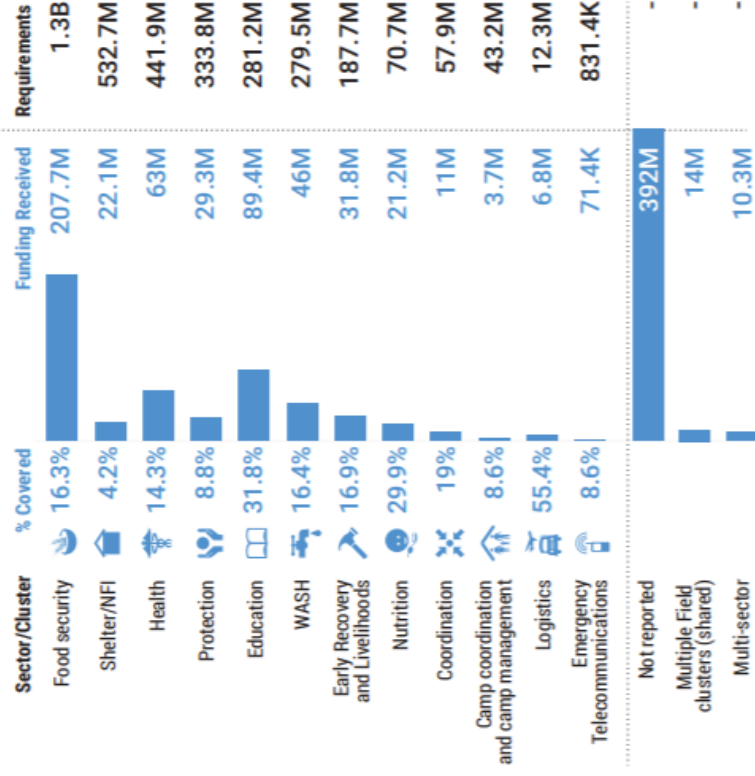
FUNDING REQUIREMENTS
US\$ 3.51 BILLION

FUNDING RECEIVED
US\$ 948.3 MILLION

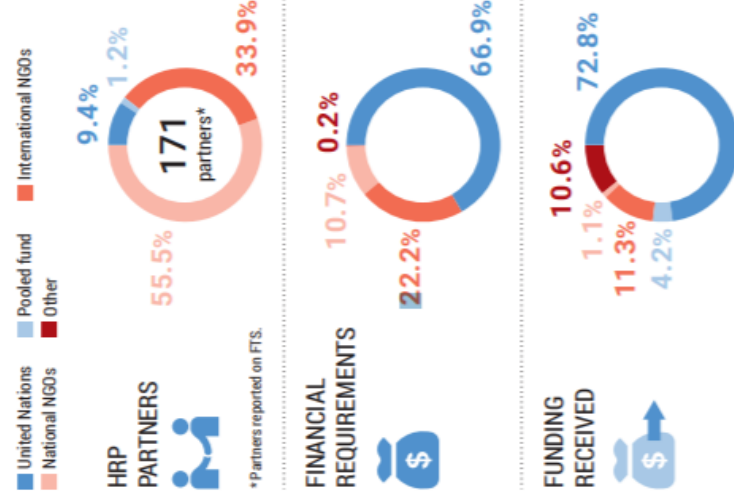
TOTAL PLEDGES
US\$ 46.7 MILLION

UNMET REQUIREMENTS **US\$ 2.57 BILLION**

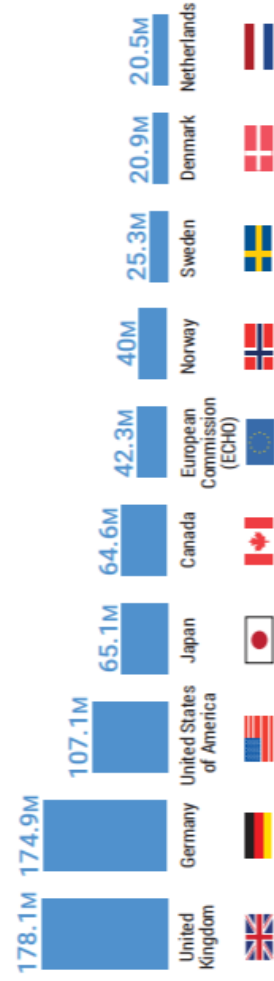
BY SECTOR (US\$)



BY ORGANIZATION TYPE



BY DONOR (TOP 10 DONORS) (US\$)



PLEDGES (US\$)

